

アクセス方法  
 <電車>  
 JR中央本線「新宿駅」→「石和温泉駅」(特急で約1時間半)  
 <車>  
 中央自動車道「一宮御坂IC」から車で約10分

memo



小さな旅 ホームページ  
<http://nhk.jp/kotabi>

# 小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 180

夢湧く里  
 ～山梨県 石和温泉～

2015年3月15日(日) 放送



夜の石和を歌や踊りで彩るのは、町の芸者衆です。盛期に800人いた芸者は今、40人ほどになりました。影響で冬でも水温が高く、コイが早く成長しているのを石和で見、新潟県から引越してきました。酒井さんの自慢は、鮮やかな光沢と大きな体の「松之助三色(まつすけさんしよく)」というコイ。品評会で何度(まつのすけさんしよく)も日本一に輝きました。今、敏男さんのもとで、息子の敏克さんが後継ぎ、父を超えるコイを作ろうとしています。

## 夜を彩る芸者衆

旅の見どころ 3

今から50年前、ぶどう畑が広がる田園地帯から温泉が湧き出ました。山梨県の石和温泉(いさわ)。今では山梨県の誇る温泉郷として親しまれています。旅人をもてなそうと一人前の芸者を目指す若い女性。温泉はニシキゴイを育てるのにも使われ、その成分で色の美しいニシキゴイを生み出します。温泉街を支えてきた人々を癒やすのも温泉。町唯一の公衆浴場には、心通わせる地元の常連客の姿が。石和温泉をこよなく愛する人たちの物語。



町で目にする立派なニシキコイも、温泉の恵みのひとことで。コイの養殖に取り組み酒井敏男さんは、温泉の影響で冬でも水温が高く、コイが早く成長しているのを石和で見、新潟県から引越してきました。酒井さんの自慢は、鮮やかな光沢と大きな体の「松之助三色(まつすけさんしよく)」というコイ。品評会で何度(まつのすけさんしよく)も日本一に輝きました。今、敏男さんのもとで、息子の敏克さんが後継ぎ、父を超えるコイを作ろうとしています。

## 温泉の恵み ニシキコイ

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

## 山々望む温泉郷・石和温泉

山梨県の中央部、山々に囲まれた甲府盆地にある笛吹市石和町は、もともと果樹栽培の盛んな土地でした。しかし、1961年、源泉が掘り当てられると、温泉地として急成長しました。アルカリ性で刺激が少なく、神経痛や冷え性に効くと言われている温泉を求め、今では年間340万人の観光客が訪れます。町の人々も、気軽に温泉を楽しんでいます。町内唯一の共同浴場は、旅館などで働き、石和を支えてきた地元の人々が集まる憩いの場所です。

